

合併は太良町民にとって大きな問題があります 太良町をなくさず、太良町の自立を選ぼう！

2002年1月

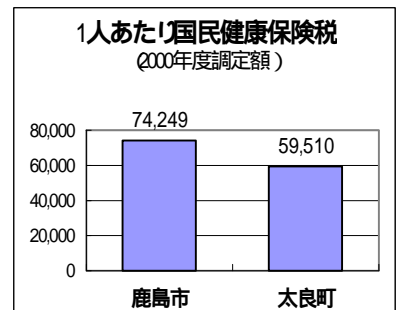
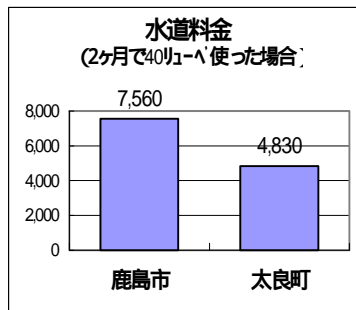
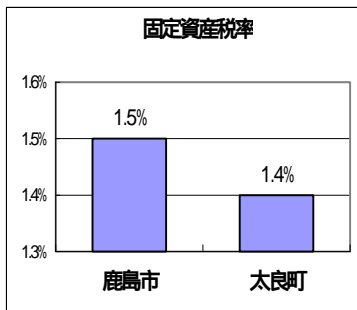
合併問題を考える太良町民の会（準備会）

若芝 栄之輔 7-0943 川上賢二 7-9072

町民のみなさんもお承知のとおり、今、太良町の合併の話が鹿島市や塩田町、嬉野町との間で進んでいます。武雄市長は杵島郡と藤津郡の2市10町の合併を提案しています。

合併すると町民の暮らしや太良町の将来はどうなるのか、合併しなかったらどうなるのか、町民のみなさんいろいろなご意見や疑問をお持ちだと思います。そこで、合併したらどんな問題があるのか、今、合併論議でどんなことが大切なのか、町民のみなさんのご参考になればと思い、私たちの意見をまとめてみました。

太良町民の税金や負担が高くなるのでは？

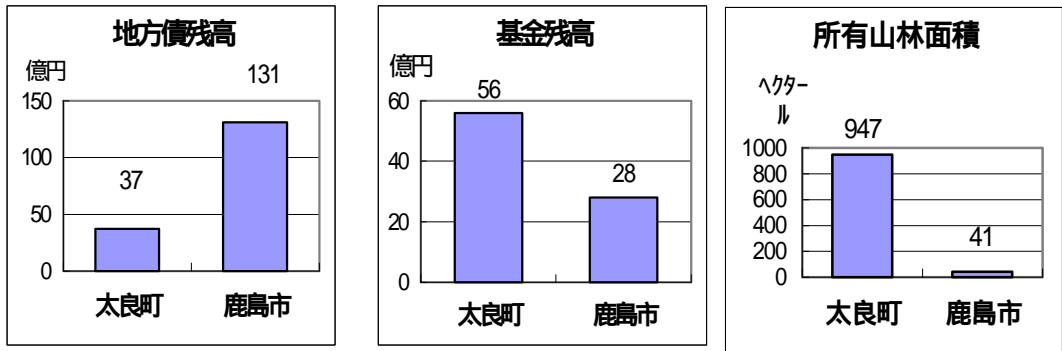


- ・ **固定資産税の税率**は現行の100分の1.4から1.5にあがります。
- ・ **水道料**は、太良町に比べて鹿島市が5割も高く、2ヶ月40リューバで、鹿島市は消費税込みで7,560円、太良町は4,830円です。水道会計が一つにされると、太良町民にとって水道料の大幅値上げになるのではないかと心配です。鹿島市の水道料金は中木庭ダム（建設中）から取水するようになるとさらに上がることが予想されます。
- ・ **国民健康保険税**は、住民一人あたりで見ると鹿島市が74,249円、太良町が59,510円です。国保会計が一つになり、保険税の値上げが予想されます。そのほかにも、保育料などいろいろな負担があります。これまでの合併の例では、多くの場合高い方に合わされています。
- ・ 骨そしょう症検診など太良町が独自にやっている**住民サービス**が、合併後も続けられるか心

配です。これまでの合併では、住民サービスは低い方にあわされている例が多くあります。

- ・ **財政**をみると鹿島市と太良町には、次のグラフのように借金（地方債残高）や貯金（基金残高）や財産の点で大きな違いがあります。合併したら、いっしょの会計になりますが、「割り切れない」という町民の方も多いと思います。

太良町と鹿島市の比較---1999年度決算より



役場も議会もなくなると、住民の意見や要望が通りにくくなるのでは？

- ・ 今は、町内に役場があるので用事があれば気軽に役場へ行くことができ、身近な職員に町のことをきくこともできます。若い職員は消防団に入っており、火事や災害のときには、頼もしい存在です。
- ・ 合併すれば、市役所は鹿島か武雄になります。合併したら「支所」をおくといいですが、これまでの例ではだんだん縮小されているのが実態です。大事なことは、鹿島か武雄に行かなければなりません。自動車を運転できない人は、市役所へ行くのも大仕事になります。
- ・ これまで、太良町のことについては、太良町の議会があり、町民の自治がありました。税金や負担をどれほどにするか、どう使うかという大事なことは太良で決めることができました。身近に町会議員もいて、町に対する要望や意見をいうこともできました。
- ・ 合併で大きな市になれば、太良のことは片隅に置かれてしまい、意見や要望もだんだんとおらなくなる心配があります。
- ・ 国や県は「地域審議会」を作るといっていますが、自治の権限はありません。

太良町は山あり、海ありの複雑な地形で、多くの区が点在しています。これくらいの広さと人口だから、どんな地域の声も町政に生かすことができます。一つの町として自立していてこそ、国にも県にも太良の主張ができるのではないのでしょうか。

役場を得意先にしてきた町内の商工業者の仕事がなくなるのでは？

- ・ 町内の多くの商工業者が役場を得意先にして生計を立てています。

たとえば、町の公共事業を引き受ける建設業者、水道や下水道などの工事関係者、役場に物品を納入する業者、役場から仕事の委託を受ける業者、町の職員が買物や昼食にでかけるお店などいっぱいあります。

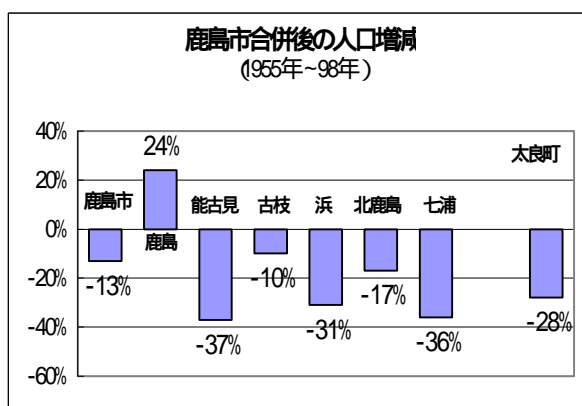
- ・ 役場がなくなることは得意先がなくなることです。新しくできた市の役所からかわりの仕事をもらえる保障はあるのでしょうか。1市3町の業者で大変な競争になることは間違いありません。
- ・ 合併で役場がなくなることは、不況で苦しんでいる町内の商工業者に追い打ちをかけることになります。商売を守るためにも、役場を残さねばならないと思います。

太良町の人口が減りさびれて行くのでは？

合併すれば、人口が減り、さびれて行くのではないかと多くの町民が心配しています。そこで鹿島市の例を調べてみました。

合併後人口が増えたのは旧鹿島町だけ(+24%)です。能古見(-37%)、浜(-31%)、七浦(-36%)は大幅に人口を減らしています。太良町の人口減(28%)よりも大きいのです。

合併で役場や議会という地域のよりどころがなくなった結果ではないかと思えます。



太良町も合併すれば、役場や議会という地域のよりどころがなくなって人口が急激に減り、地域全体がさびれていくのではないかと心配されます。人口減少の次には学校の統合などいろいろな問題が全国各地でおきています。

太良町として自立してこそ、太良の歴史や特徴を生かした独自の町づくりをすすめ、活性化をはかることができるのではないのでしょうか。

合併して10年たったら-----地方交付税は減らされ、残るのは借金だけ

- ・ 「合併すれば、財政優遇措置がある」と国や県は宣伝しています。国や県の「合併優遇策」には、合併後10年間は地方交付税を減らさないとか、10年間に340億円の借金をしてよいなどと書いてあります。しかし、「財政難だから合併せよ」と言っているのです。そんな財源が本当にあるのでしょうか。財政難だからと約束不履行になる恐れはないのでしょうか。
- ・ 国は、「合併しなければ地方交付税を削る」といっていますが、合併して人口がふえると逆に減る仕組みになっているのが地方交付税なのです。ある試算では、鹿島市と藤津3町が合併した場合の地方交付税は、現在3町が交付されている地方交付税の合計(2000年度で107億円)よりも最終的には20億円以上減ることになります。国が合併を進めているのは、も

ともと地方交付税を減らすためなのです。

- ・ 仮に、合併で財政が一時的にふくれたにしても、そのお金がどこに使われるかが問題です。県の合併推進要綱は合併のメリットとして「鹿島市の都市機能の強化」ということをあげています。鹿島市中心部の大型開発に重点的に使われていくのではないのでしょうか。
- ・ 1999 年度末で鹿島市と藤津 3 町の借金（地方債残高）の合計は約 267 億円です。これに、340 億円もの「合併借金」が加わったら、借金地獄がますますひどくなることは明らかです。これが原因で、さらに住民の負担が重くなり、住民サービスが悪くなる危険があります。
- ・ 結局、合併して 10 年がすぎれば、地方交付税は大幅に減らされ、借金だけが残って合併する前よりも、まだひどい財政難におちいる危険の方が大きいのです。「うまい話し」とびついて後でひどい目にあうことは、リゾート開発と同じです。町民が力を合わせて、太良町の自立をまもってこそ、今の財政困難も乗り越えることができるのではないのでしょうか。

合併でなく、太良町の自立の道をえらぼう

暮しが大変なときに、合併で税金や負担がふえたら生活がやって行けません。不況で大変なのに役場までなくなって、商売ができなくなってしまったら大変です。子孫にさびれてしまった太良を残したくはありません。何よりも、「太良町」をなくしたくありません。

太良には、「ゆたたりの里」といわれるほどの豊かな産物があり、それを生み出してきたすばらしい自然があります。平地が少ない中でも樹を植え、みかん園を切り開いてきた町民の努力があります。そして、財政的に厳しい中でもたくわえてきた基金などの財産があります。

ゆたかな産物と勤労、町の財産――これを生かせば、太良町の産業を発展させ、若者が働く場をつくり、経済を再生することも可能だと思います。そうすれば町の税収も増え、自立してやっていける基盤ができていくのではないのでしょうか。

私たちは、今度の合併論議のなかで、「太良は鹿島などと合併しないで自立してやって行く」ということと、「太良の町づくり、地域づくりどう進めるか」ということをあわせて議論していくことを提案したいと思います。

町は町民に情報を提供し、 町民の間での議論の保障すべきです

合併するかどうかは住民が決めることです。国や県が権力で押しつけることではありません。私たちは、国に対して合併の押しつけはやめるよう求めるとともに、太良町にも次のことを求めます。

- ・ 合併を前提にした議論にしないこと。

- ・ 町が主催して、合併問題での説明会・講座などを開くとき、講師の選定は合併推進の講師に偏らないこと。合併のメリットを語る講師だけでなく、合併の問題点を語る講師も必ず配置すること。配布する資料も、県が作成した合併推進の資料だけでなく合併の問題点も指摘した資料も配布すること。町の広報の合併関連記事も同様。
- ・ 1市3町が集まったの研究、協議などの内容は町民に公表すること。
町民の間で十分議論をつくり、合併の是非については住民投票で町民の意思を問うこと

以上